

基本に返れー。失われつつあるアナログの回路技術を若手技術者に伝承しようと、群馬県の産官学が力を合わせて人材育成に取り組んでいる。企業OBなどが教師役となり、若手から中堅の技術者に座学と実学で技術を伝授する。知識を詰め込むだけでなく、手も動かす。団塊の世代が引退の時期を迎えるなか、若手が技術を思いのままに使えるようにとの親心がほの見える。

「計算通りの数値が出ていないな」「はんだ付けを失敗しているのでは」。九月中旬、群馬大学工学部(桐生市)で開かれた若手技術者向けの講座。受講者ははんだを手に真剣なまなざしで四平方センチの基板に向かった。作製したのは携帯電話などに使う高周波回路。仕組みの理論を座学で学んでコンピュータによる設計をした後、実際に手作業で回路を作ってみる。ここで学ぶのがアナログ技術だ。

勤め先にも還元

受講者の一人、太陽誘電の関根英行さん(24)は「会社ではシミュレーションだけしかやらない。実習をすることで頭に入る内容が濃くなる」と話す。デザインネットワーク(東京・新宿)でラジオの回路設計に携わ

る小山誠さん(37)は「高周波回路に取り組むのは初めて。基礎理論から実習まで学べる良い機会」。実習をすることで頭に入る内容が濃くなる。デザインネットワークで得たノウハウを後輩にも還元する考えだ。講座は群馬県産業界支援

団塊の勤継承 アナログ技術



モノづくり、基本学ぶ

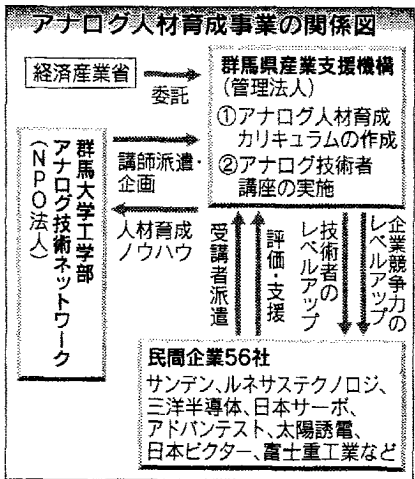
栃木・茨城県でも育成策
北関東各県でも若手へ気機器組み立てなど六種の技術継承のための取り組みを今年度から相次ぎする。同県が認定する団体は十一月から「とちぎマイスター技能塾」を開く。茨城県でも六月から

ルネサステクノロジなど「平日業務に支障がないの半導体関連企業と群馬、大工学部、企業OBから成る特定非営利活動法人(NPO法人)のアナログ技術ネットワークなり、群馬アナログカレッジ」を立ち上げる方針だ。

群馬で産官学回路など座学・実践塾



はんだを手に真剣なまなざしで4平方センチの基板に向かう若い受講者



迫る2007年問題

「いばらき名匠塾」を開始した。金属加工や電子技術など計十二コースを準備して、定員はそれぞれ五人以内。二十〜三十代の若手技能者を育てる。同県が認定した技術者「ものづくりマイスター」が講師として活躍する。背景には、団塊世代の技術者が大量に退職する。二〇〇七年問題がある。コンピュータで設計できるデジタル回路に比べ、経験を生かした人の手によるモノづくりが必要。アナログでは「技術者の育成に十年かかる」(群馬県産業界政策課)。人材を育てるのは長期戦となるが、大学も他校にない育成カリキュラムを確立することで優秀な学生の輩出が期待できる。

「美習レベルは適切か」今年度までの事業ではどうクリアするか。

産官学が一体となってアナログ人材育成を急ぐ(前橋支局 栗原健太)

▼アナログ 量またはデータを連続的に変化させる電圧や電流などの物理量で表示する方法の総称。アナログ技術は携帯情報通信網(LAN)構内電話や無線LAN(構内情報通信網)、ハードディスクなどパソコン部品に必要とされる。「0」と「1」の信号によって表現するデジタルとは対照的。

雑音の影響を受けにくいなどの特性から音響、映像機器はアナログ方式からデジタル方式に急速に移行している。しかし、携帯電話の通話音質や受信性能はアナログの高周波回路技術などに支えられている。デジタル技術の高度化と並行して、アナログ技術の一層の向上が求められている。